

どうなってるの?!





ある休みの日。

5才の男の子のタイガくんは、お父さんとお母さんと一緒に新しいソファーを選びに、ソファー屋さんへでかけました。



お店にはたくさんのソファが並んでいます。

大きいソファ、、、小さいソファ、、、

いろいろな形、、、様々な色、、、

1つ1つ違っていてタイガくんはワクワクして
じっとしてられません。

「全部のソファに座ってみたいなあ」



そして、お店の中にはソファーを選びにきた他の
お客さんもたくさんいます。

タイガくんはあっちこっちと色々なソファーに座って
遊んでいると、赤いきれいなソファーに座って
話し合っているおじいさんとおばあさんの会話が
聞こえてきました。

「この座り心地はもふもふしていて気持ち良いですね」

「そうだな、まるで、この前動物園で見たアルパカに
乗っているようだな。」



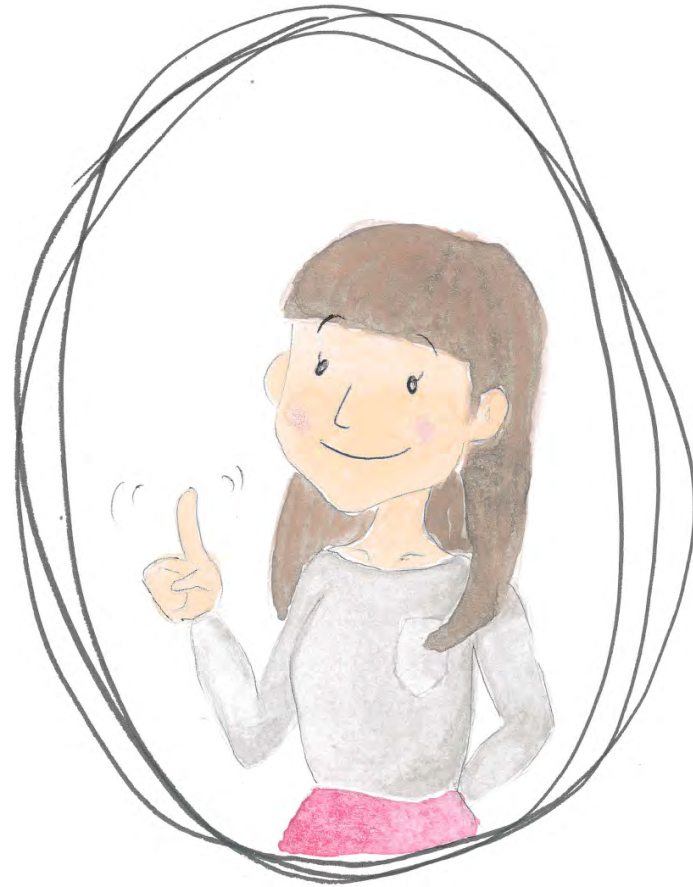
「えーーーーー！！アルパカ」

タイガくんはおどろきました。

もしかしてソファーの中にアルパカが入っているの？！？

タイガくんはアルパカがソファーの中に入っているのかも…………と

想像しながらお父さんとお母さんの元へ戻りました。



ちょうど二人は店員さんと新しいソファの
相談をしていました。

お母さんの希望は

「コットン 100% がいいわ。冬は温かく夏は涼しく
快適だと思うの。どうかしら？」

「お母さん、コットンってなに？」

「コットンは綿花っていうお花が咲いたあとにできる
白くて、ふわふわしたわたあめみたいなものよ」



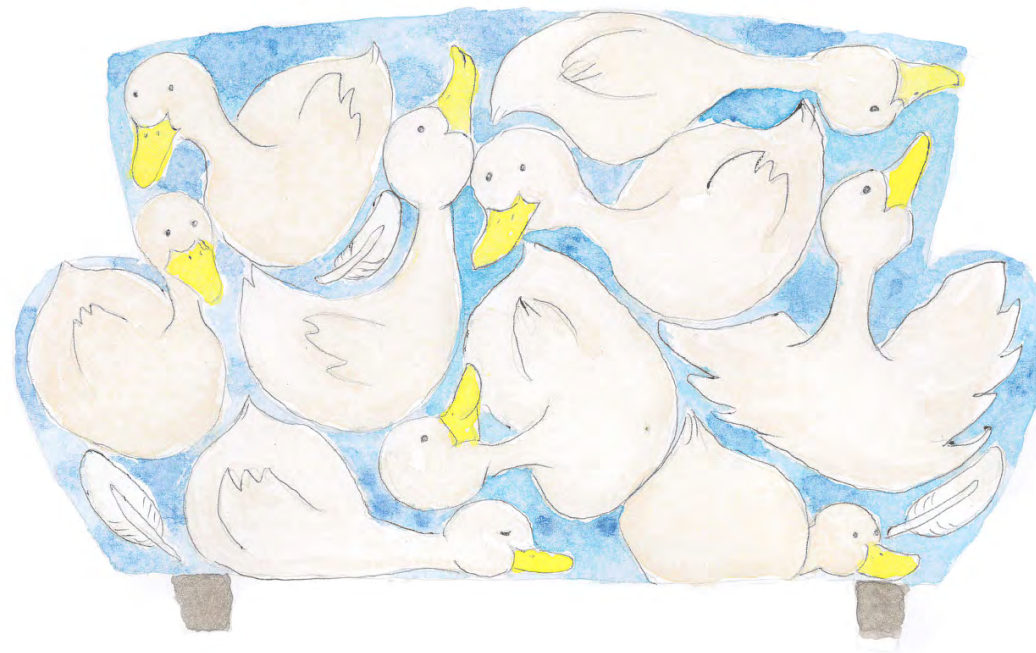
「お花と……白くてふわふわのわたあめみたいなものが
ソファーに入っているのかー。」

タイガくんはまた想像します。



そんな時、店員さんがおススメのソファを
紹介してくれました。

「こちらのソファは羽毛入りで、包み込まれるような
リッチな座り心地です。ぜひ試してみてください。」

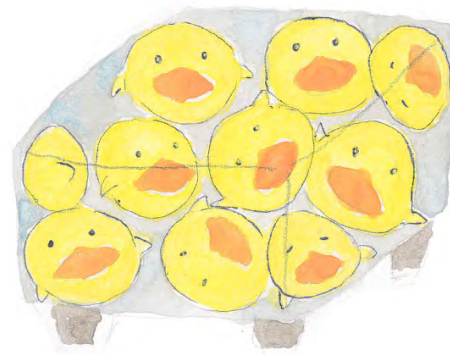


タイガくんはまたまたおどろきました

「えー！?! 羽毛??!

羽毛ってことは鳥の羽ってことだ!

アヒルさんがソファーの中に入っているのかー。」



「ということは…

もしかして、もしかして、

こっちの小さいソファーにはヒヨコさんが

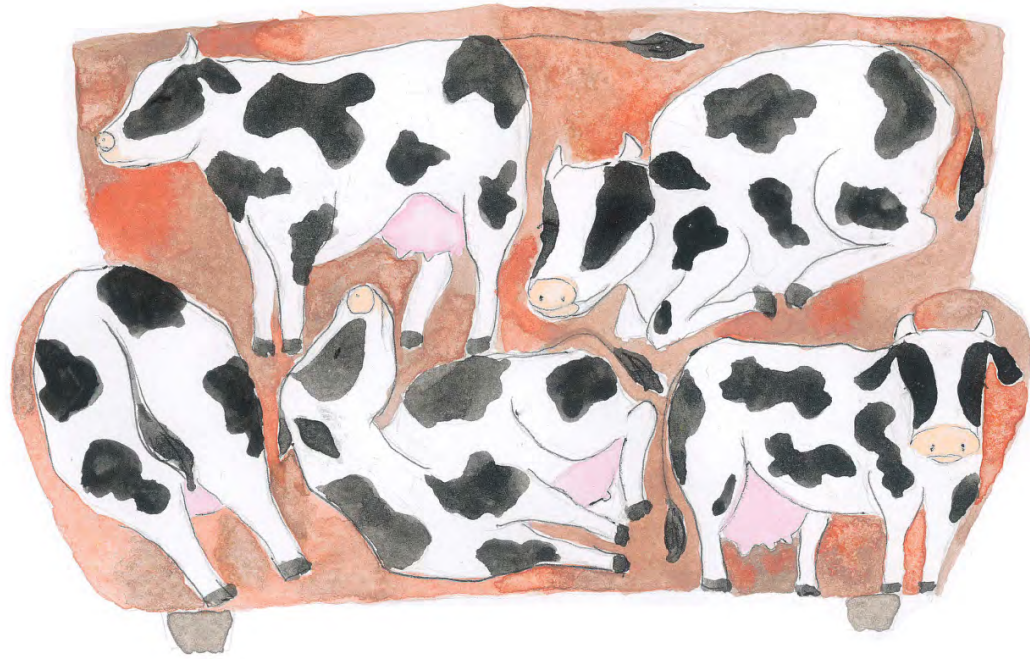
入っているのかも!？」



そんなことを考えていると

今度はお父さんが自分の希望を話してくださいました。

「ぼくは高級感のある、牛革張りのソファがいいなあ」



タイガくんはまたまたおどろきました

「えー！！牛さん！？

今度は牛さんのソファー！？」



皆の話を聞いて、色んなものがソファーに入っているのを考えたタイガくんは、
なんだかドキドキしながらお家に帰りました。

夜になり、その日の興奮がおさまらないタイガくんは
ソファーでジャンプ
それを見てお母さんが注意します
「ソファーでジャンプしちゃダメよ」
「わかってるよーだ。」



お母さんの注意を聞かず、タイガくんは
ソファーの上でジャンプをするのをやめません。
すると、その時です

バリバリボコドコドッスン

なんとソファーに穴があいてしまったのです

イテテテ……



すると、そのソファの穴から何か聞こえてきます

ピヨピヨピヨピヨ

「え！？！」

まさか！？

ヒヨコ！！

穴をのぞくとヒヨコがチラッと顔をのぞかせています。



「わーーーーー！

今日ぼくがお店で想像したことが本当になっちゃった！」

穴の中からはヒヨコ……アヒル……と

どんどん出てきて、部屋の中を走り出します。

「待ってー。部屋がぐちゃぐちゃになって

ママにおこられちゃうよー」

それでもヒヨコとアヒルは止まりません。

それどころか次々にアルパカ、牛、綿とでてきて……



ぐるぐるぐるぐるぐる

うずまきになって部屋の中をまわります。

「もうソファでジャンプしないから止まってー！」



ハッと気がつくとタイガくんはベッドの上でした。

「なーんだ、夢だったのか」



数日後、タイガくんの家に新しいソファが届きました。

「もうぼくはジャンプしないんだ」

あの日以来、タイガくんはきちんと座れるようになりました。

お母さんも不思議そうです。

「あら、あんなに注意してもやめなかったのに

急にどうしたのかしら、、、」

するとヒラリとソファから羽が一枚落ちました。

タイガくんはおどろいてその羽を隠しました。

「夢のはずなのに！！どーなってるの！？」

NOYES
SOFA 100%

2020年2月22日発行

著者 ゆじゃり

発行者 株式会社 NOYES

第8回 NOYES 絵本コンクール ZIP 賞作品